

府中市商工業景況調査報告書

平成24年5月実施

むさし府中商工会議所
中小企業相談所

1. 府中市商工業の景況調査結果の概要

前年同期の景況との比較(DI) (単位: ポイント)

項目	前回景況 (H22.10~ H23.3)	今回景況 (H23.10~ H24.3)	前年比
売上状況	-24.3	-6.3	18.0
採算水準	-33.1	-14.1	19.0
資金繰り状況	-15.4	-5.8	9.6
借入容易度	0.6	8.2	7.6
設備投資	-50.2	-52.2	-2.0
従業員の過不足	-3.0	-18.5	-15.5
業況	-36.1	-5.8	30.3

【景況】

平成23年10月～平成24年3月の市内商工業の景況をDI(景況判断指数)で見ると、前年同期と比較して、「売上状況」、「採算水準」、「業況」でプラス値が大きく増加した。

前年同期の景況予測との比較(DI) (単位: ポイント)

項目	前回予測 (H23.4~9)	今回予測 (H24.4~9)	前年比
売上状況	-36.6	-7.0	29.6
採算水準	-36.1	-12.7	23.4
資金繰り状況	-30.8	-14.7	16.1
借入容易度	-13.6	-7.0	6.6
設備投資	-56.2	-47.8	8.4
従業員の過不足	6.5	-14.6	-21.1
業況	-44.3	-8.3	36.0

【景況予測】

平成24年4月～9月間の景況予測をDI(景況判断指数)で見ると、前年同期と比較して、「売上状況」、「採算水準」、「業況」でプラス値が大きく増加した。

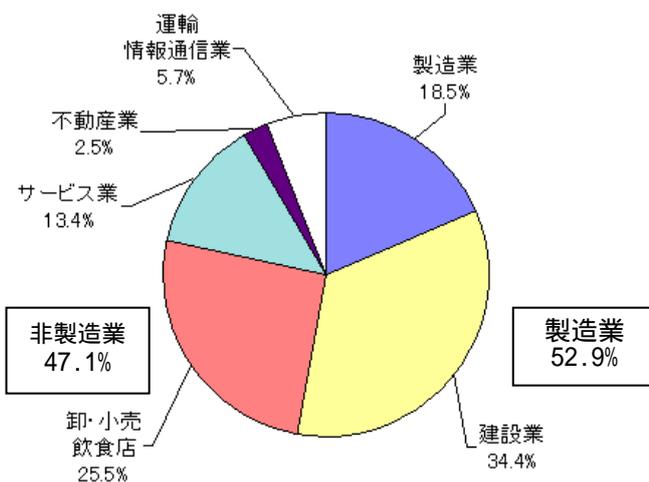
【グラフの見方】

景況は、平成23年10月～平成24年3月間の経営状況をまとめています。
 予測は、平成24年4月～9月間の経営の見通しについてまとめています。
 各項目DI(景況判断指数)の推移は、当該期間のデータにより作成しています。
 売上状況・採算水準・資金繰り・従業員の過不足・業況の5項目のDI推移について、「東京都中小企業の景況」の結果を掲載しました。

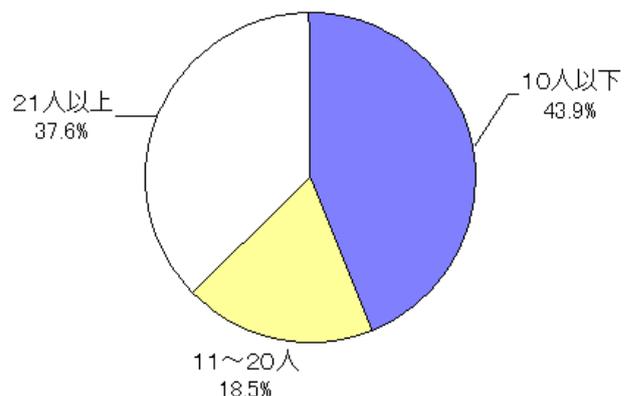
2. 調査対象企業の概要

調査対象企業 300 社のうち、回答は 157 社 (52.3%)

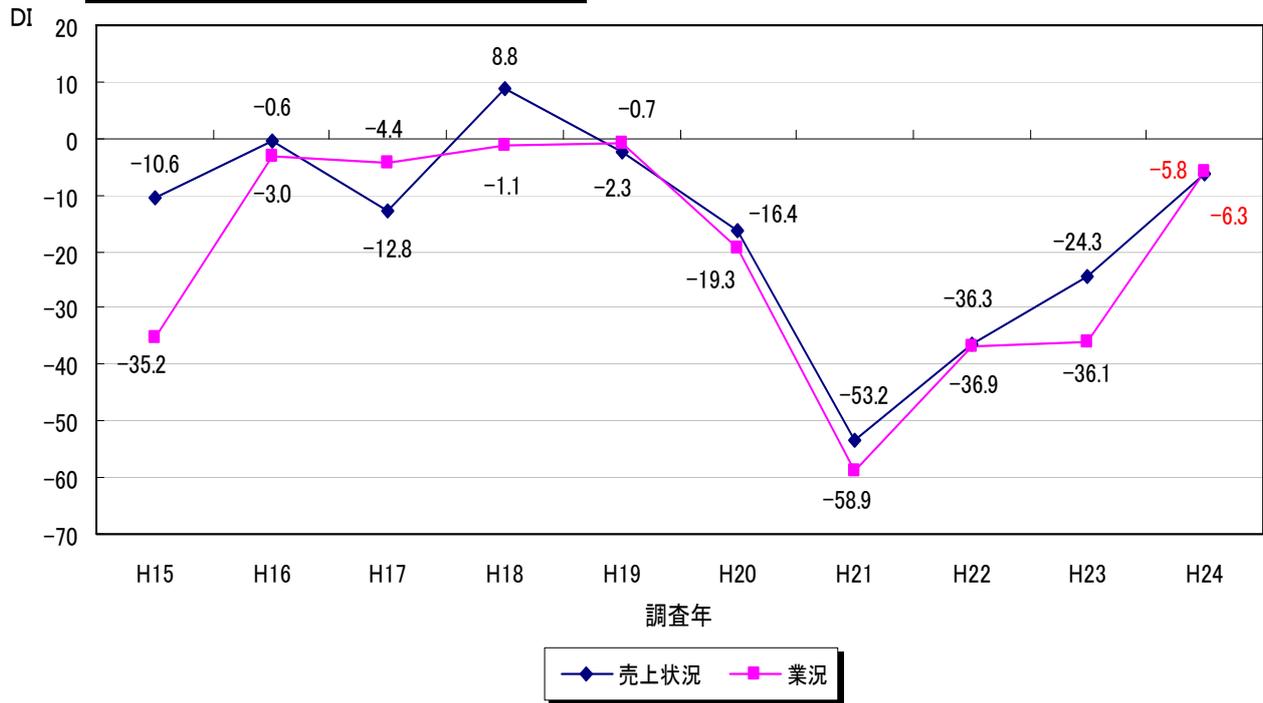
回答者の属性 (業種)



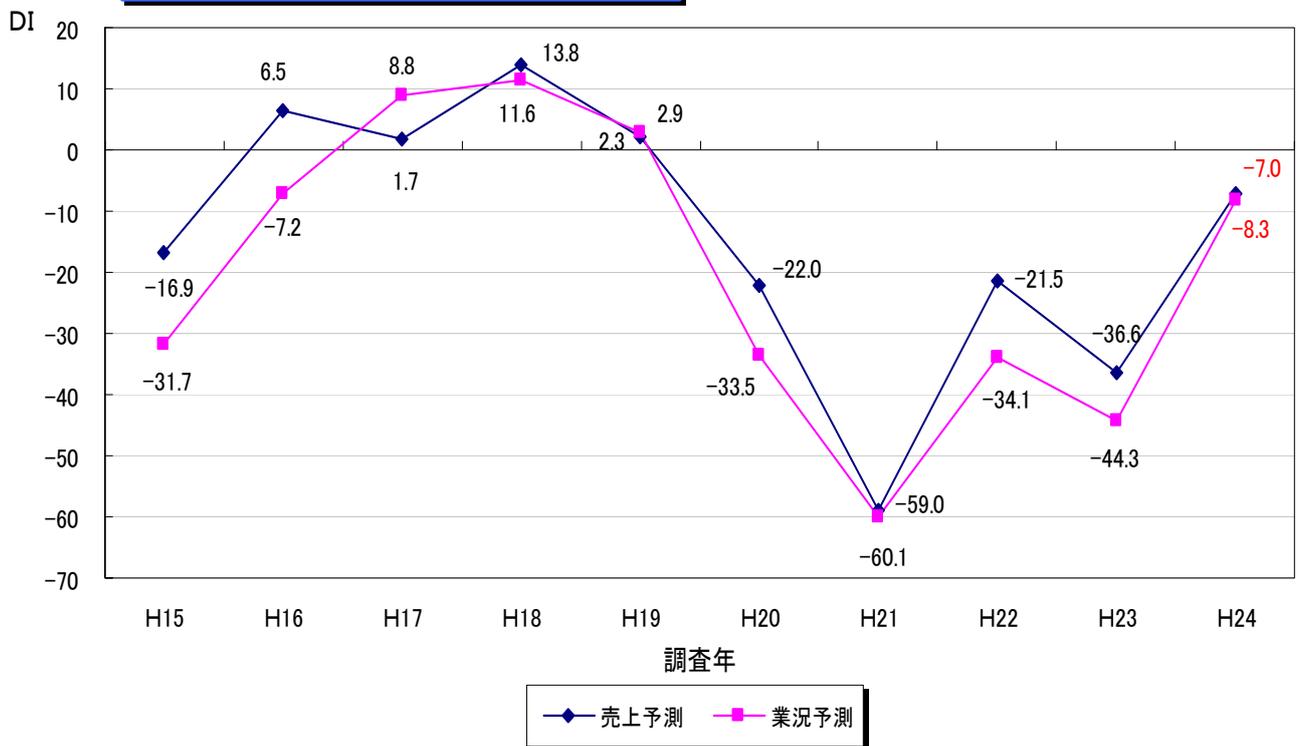
回答者の属性 (従業員規模)



売上状況及び業況（各年5月調査）



売上予測及び業況予測（各年5月調査）

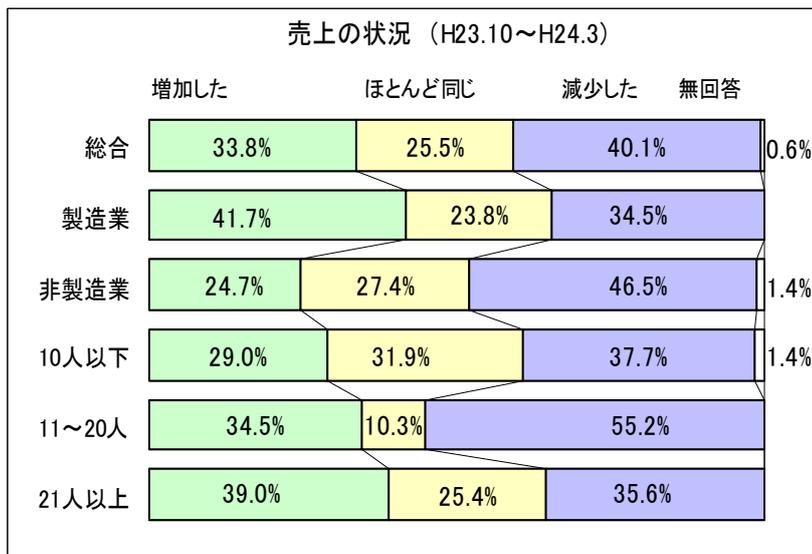


主 な 出 来 事

平成 15 年	イラク戦争勃発
	日本郵政公社発足
	日経平均株価、大底 7,607 円、20 年前の水準
平成 16 年	狂牛病発生、米産牛肉輸入停止
	新潟県中越地震発生
平成 17 年	愛・地球博（愛知万博）開催
	郵政民営化法案が可決
平成 18 年	ライブドアショック
	会社法施行
	平成 14 年からの景気拡大がいざなぎ景気を抜く
平成 19 年	サブプライムローン問題（世界金融危機）発生
	日本郵政株式会社スタート
平成 20 年	原油価格急騰 史上最高値を更新
	リーマンブラザーズ経営破綻
	日経平均株価、バブル後最安値 7,162 円を記録
平成 21 年	米国大統領にオバマ氏就任
	衆院選民主党が圧勝し、政権交代
	新型インフルエンザが世界的に流行
	政府のデフレ宣言
平成 22 年	日本航空会社更生法適用、過去最大の破綻
	中国の GDP が日本を抜き、世界第 2 位に
	宮崎で家畜伝染病口蹄疫発生
	気象庁統計史上、最も暑い夏を発表
	日本振興銀行経営破綻、ペイオフ発動
平成 23 年	東日本大震災と福島原発事故発生
	電力需給逼迫による計画停電の実施と電力使用制限令の発動
平成 24 年	世界一の自立電波塔「東京スカイツリー」開業

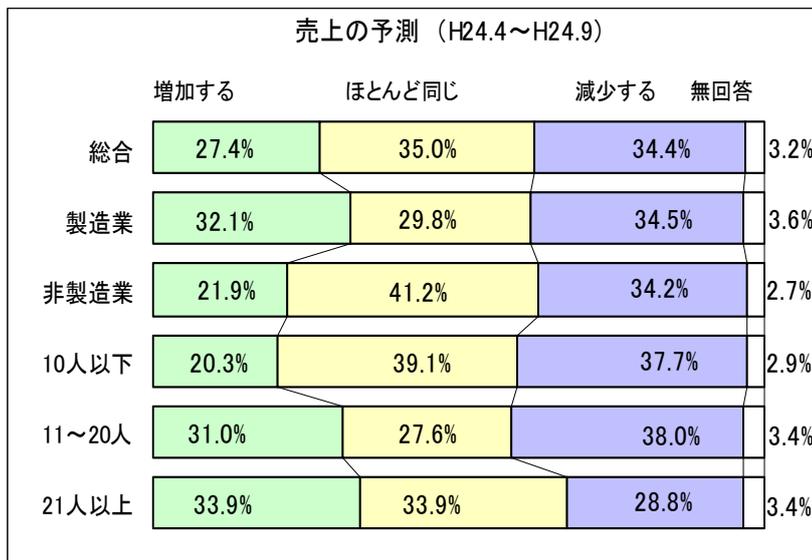
3. 集計結果

(1) 売上について



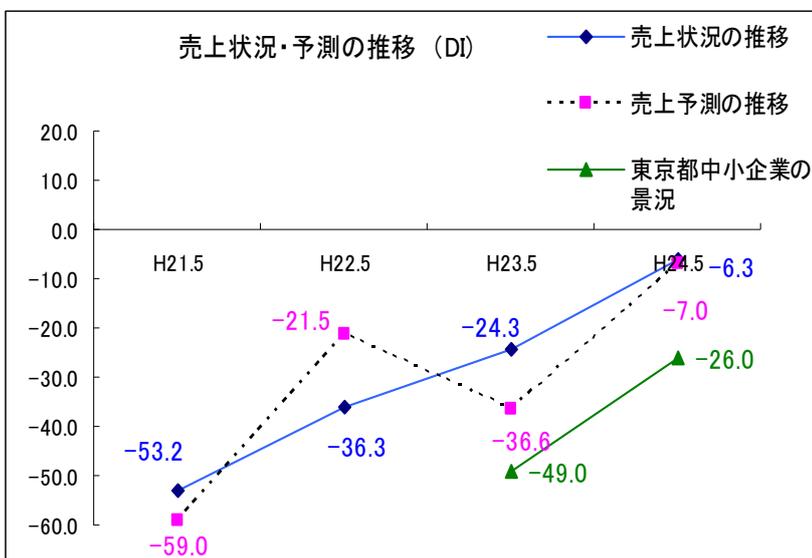
ここがポイント!

総合では、「減少した」割合が「増加した」割合より6.3ポイント高い。
業種別では、「増加した」割合は製造業が非製造業に比べ17.0ポイント高い。
規模別では、「増加した」割合は「21人以上」で39.0%と最も高く、「減少した」割合は「11~20人」で55.2%と最も高い。



ここがポイント!

総合では、「減少する」割合が「増加する」割合より7.0ポイント高い。
業種別では、「増加する」割合は製造業が非製造業に比べ10.2ポイント高い。
規模別では、「増加する」割合は「21人以上」で33.9%と最も高く、「減少する」割合は「11~20人」で38.0%と最も高い。

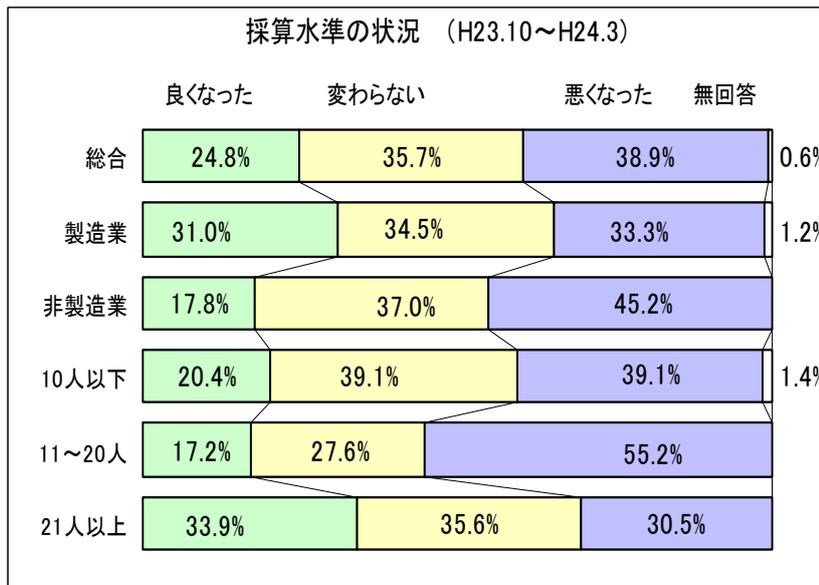


ここがポイント!

売上状況・予測DIの推移

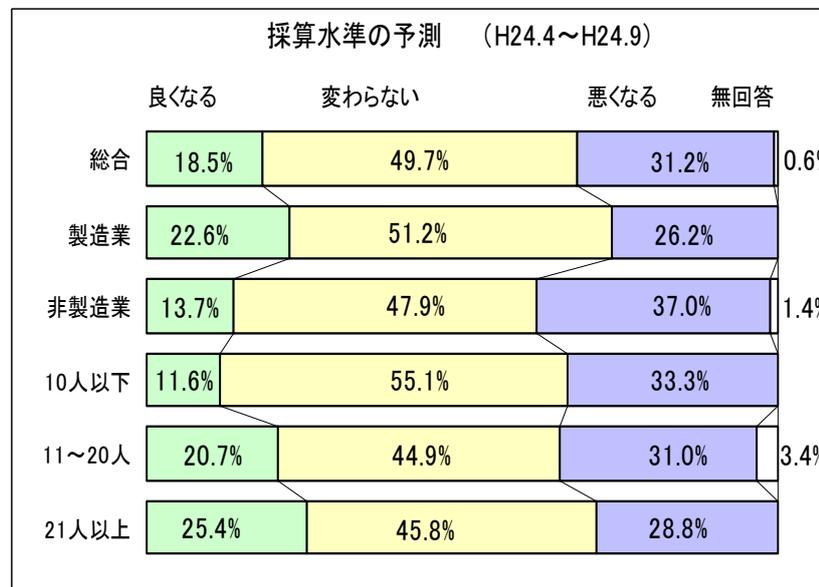
売上状況・予測の値は、マイナス値の範囲内ではあるが大きく上昇した。

(2) 採算水準について



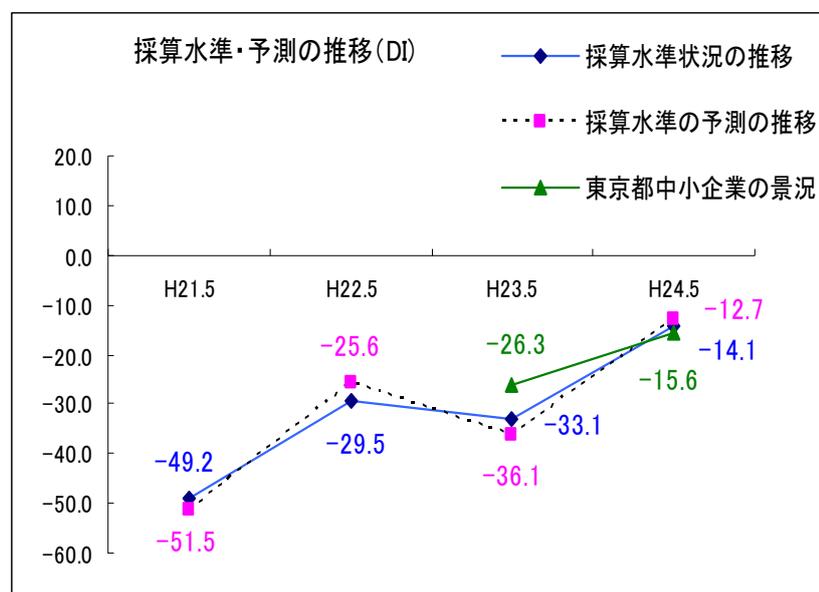
ここがポイント!

総合では、「悪くなった」割合が「良くなった」割合より14.1ポイント高い。業種別では、「良くなった」割合は製造業が非製造業に比べ13.2ポイント高い。規模別では、「良くなった」割合は「21人以上」で33.9%と最も高く、「悪くなった」割合は「11~20人」で55.2%と最も高い。



ここがポイント!

総合では、「悪くなる」割合が「良くなる」割合より12.7ポイント高い。業種別では、「良くなる」割合は製造業が非製造業に比べ8.9ポイント高い。規模別では、「良くなる」割合が「21人以上」で25.4%と最も高く、「悪くなる」割合は「10人以下」で33.3%と最も高い。

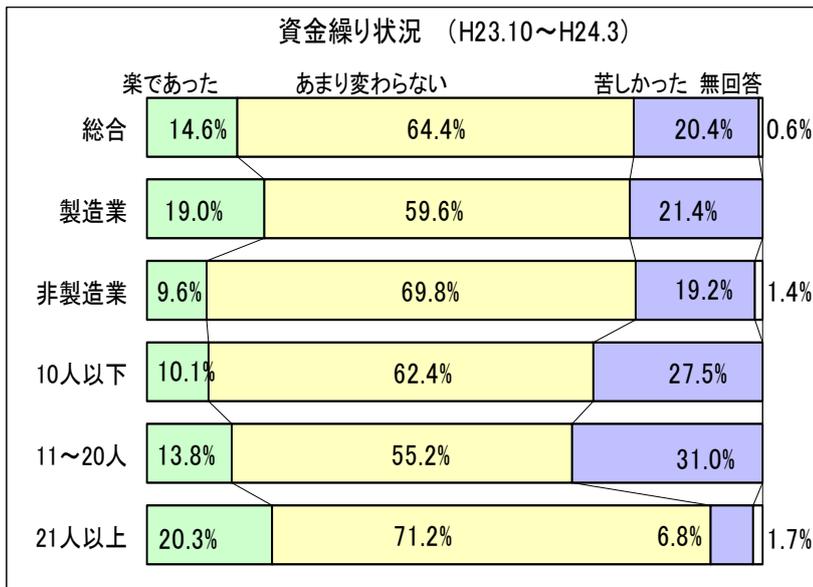


ここがポイント!

採算水準状況・予測DIの推移

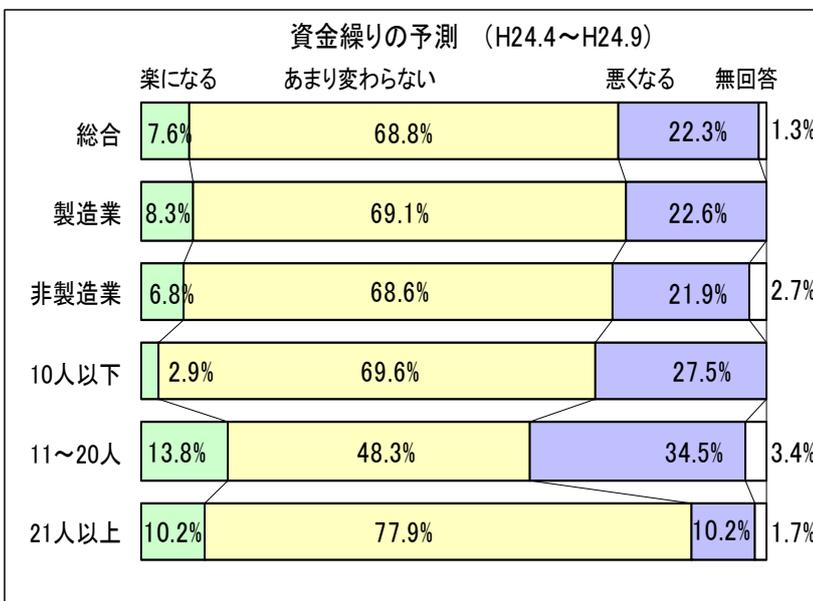
採算水準状況・予測の値は、マイナス値の範囲内ではあるが大きく上昇した。

(3) 資金繰りについて



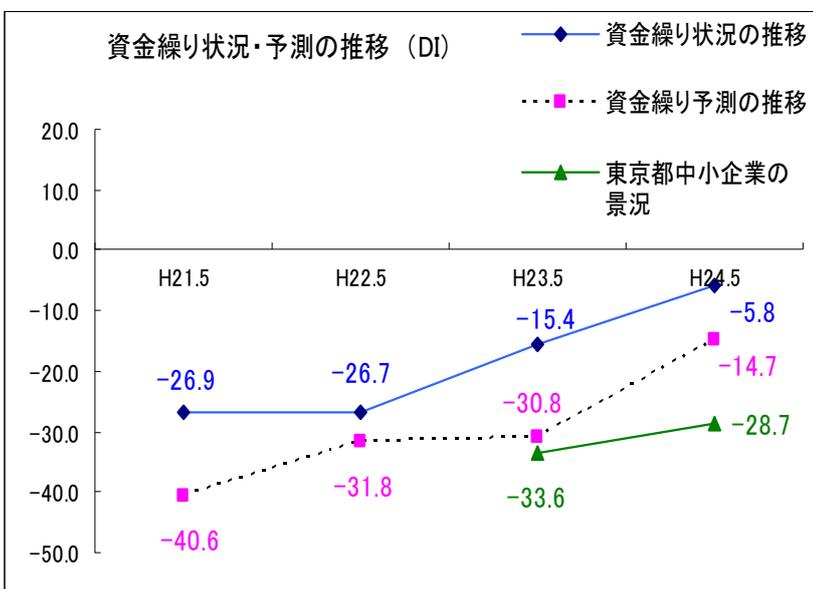
ここがポイント!

総合では、「苦しかった」割合が「楽であった」の割合より 5.8 ポイント高い。
業種別では、「楽であった」割合は製造業が非製造業より 9.4 ポイント高い。
規模別では、「楽であった」割合は「21人以上」で 20.3%と最も高く、「苦しかった」割合は「11~20人」で 31.0%と最も高い。



ここがポイント!

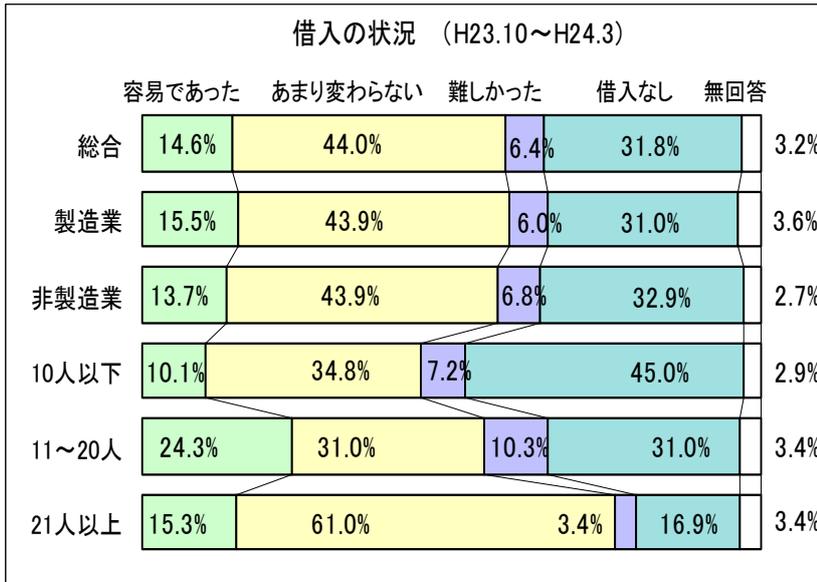
総合では、「悪くなる」割合が「楽になる」割合より 14.7 ポイント高い。
業種別でも、総合とほぼ同様の結果となった。
規模別では、「楽になる」割合は「11~20人」で 13.8%と最も高く、「悪くなる」割合も「11~20人」で 34.5%と最も高い。



ここがポイント!

資金繰り状況・予測DIの推移
資金繰り状況の値・予測の値は、マイナス値の範囲内ではあるが上昇した。

(4) 借入容易度について

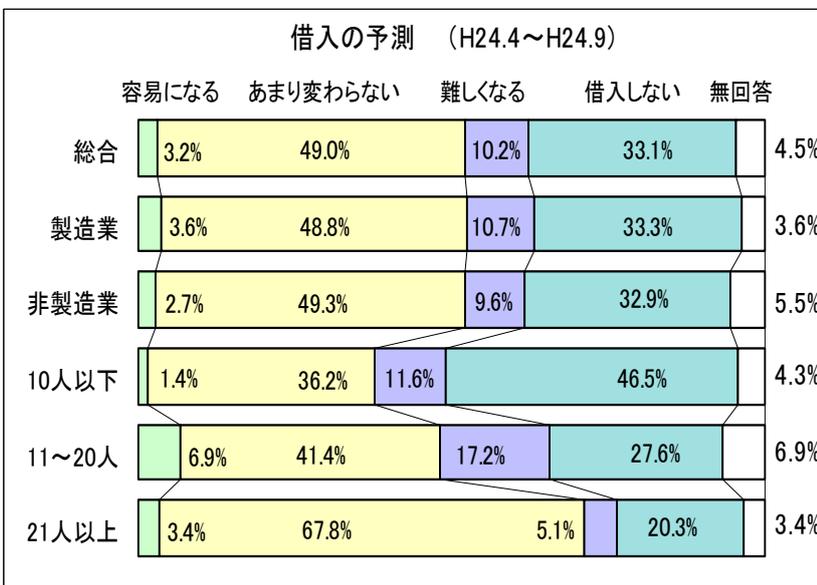


▶ここがポイント!

総合では、「容易であった」割合が、「難しかった」割合より8.2ポイント高い。

業種別でも、総合とほぼ同様の結果となった。

規模別では、「容易であった」割合が「11~20人」で24.3%と最も高い。



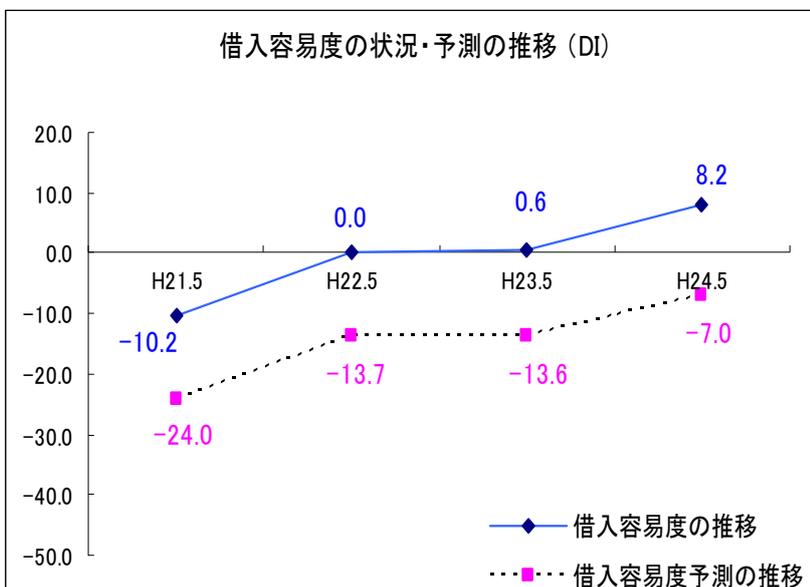
▶ここがポイント!

総合では、「難しくなる」割合が「容易になる」割合より7.0ポイント高い。

業種別でも、総合とほぼ同様の結果となった。

規模別では、「11~20人」で「容易になる」割合は6.9%、「難しくなる」割合が17.2%とそれぞれ最も高い。

小規模の事業者ほど借入しない傾向にあることがうかがえる。

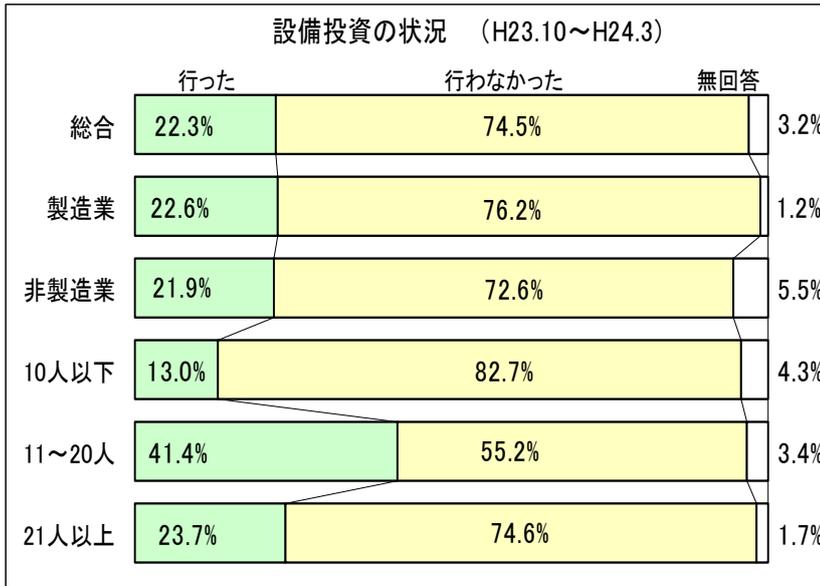


▶ここがポイント!

・借入容易度状況・予測DIの推移

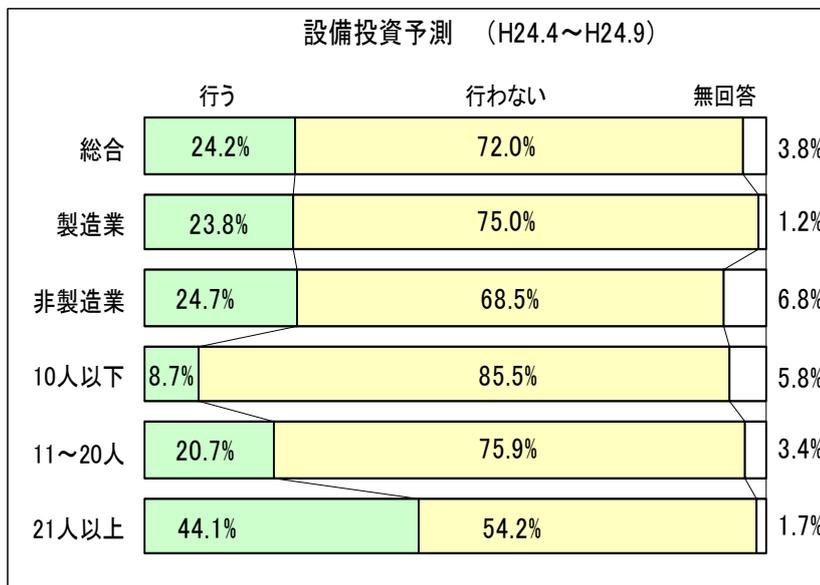
借入容易度の状況・予測の値は、それぞれ上昇した。

(5) 設備投資について



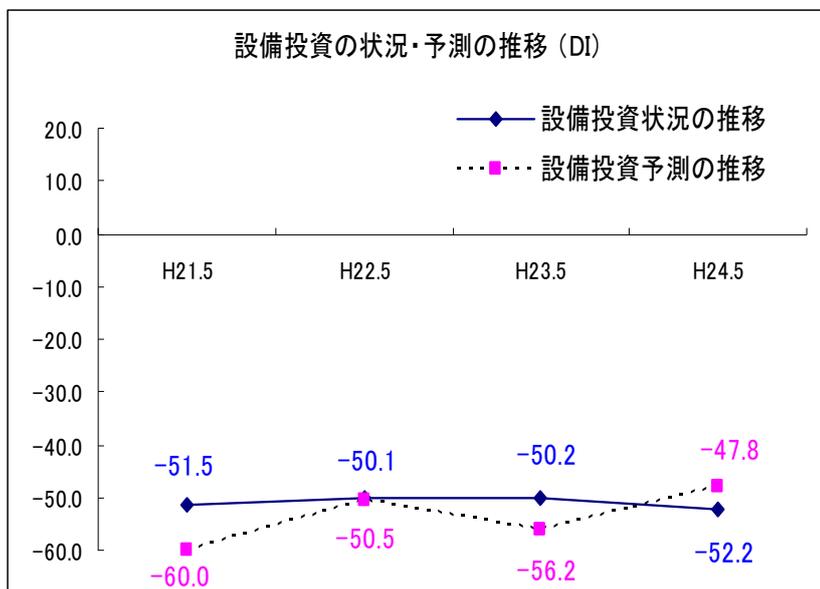
▶ここがポイント!

総合では「行った」割合は 22.3%であったが、「行わなかった」割合が 74.5%と依然として高い。業種別でも、総合とほぼ同様の結果となった。規模別では、「行った」割合は「11~20人」で 41.4%と最も高い。



▶ここがポイント!

総合では、「行わない」割合が 72.0%と依然として高い。業種別でも、総合とほぼ同様の結果となった。規模別では、「行う」割合が「21人以上」で 44.1%と最も高く、「行わない」割合は「10人以下」で 85.5%と最も高い。

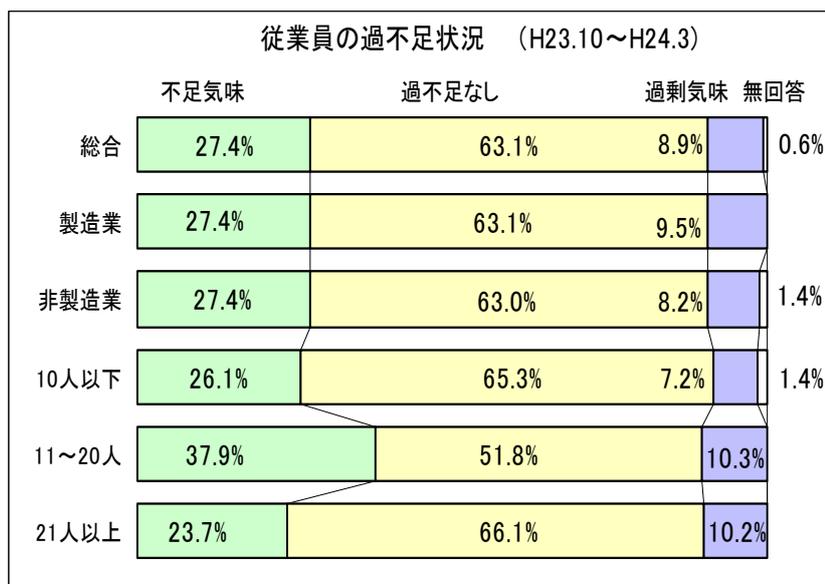


▶ここがポイント!

・設備投資の状況・予測DIの推移

設備投資の状況・予測の値は、依然としてマイナス値の範囲内で推移している。

(6) 従業員の過不足について

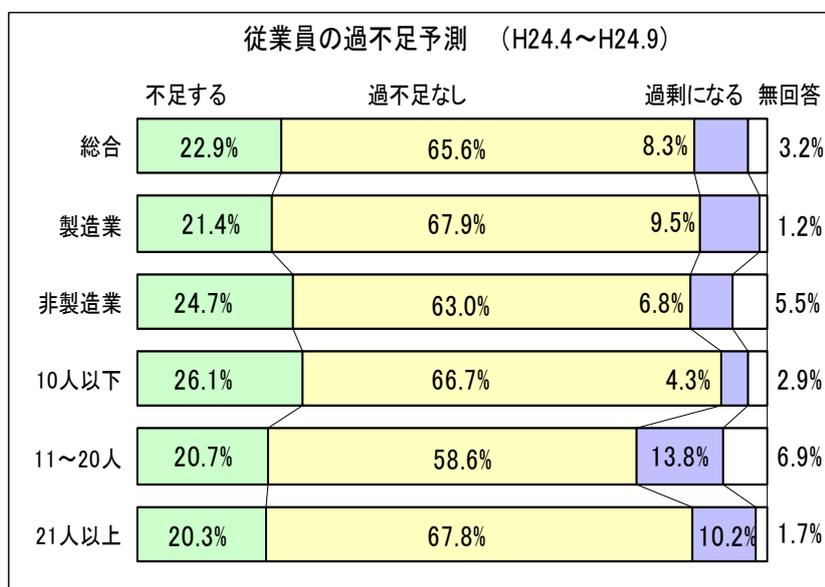


ここがポイント!

総合では、「不足気味」の割合が「過剰気味」の割合より18.5ポイント高い。

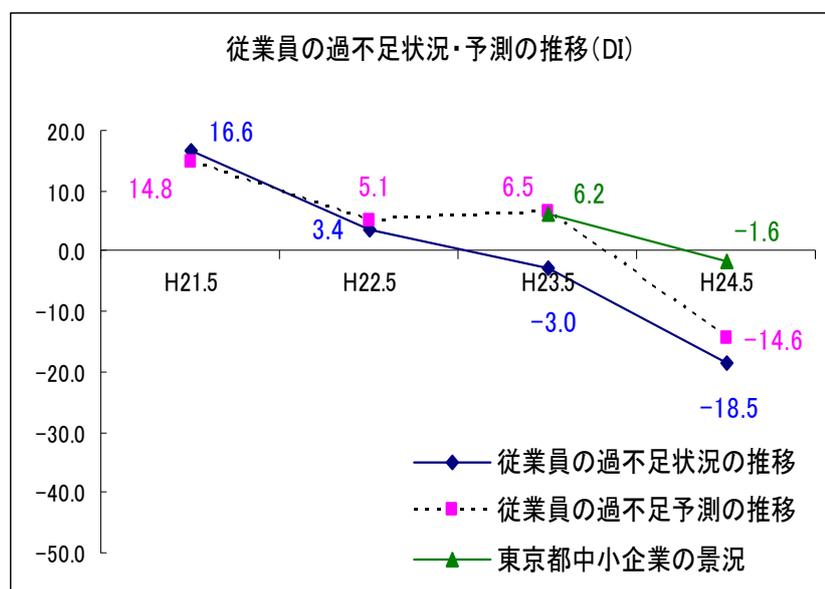
業種別では、製造業・非製造業共にほぼ同様の結果となった。

規模別では「11~20人」で「不足気味」割合が37.9%、「過剰気味」割合が10.3%と最も高い。



ここがポイント!

総合では、「不足する」割合が「過剰になる」割合より14.6ポイント高い。業種別・規模別においても、総合とほぼ同様の結果となった。



ここがポイント!

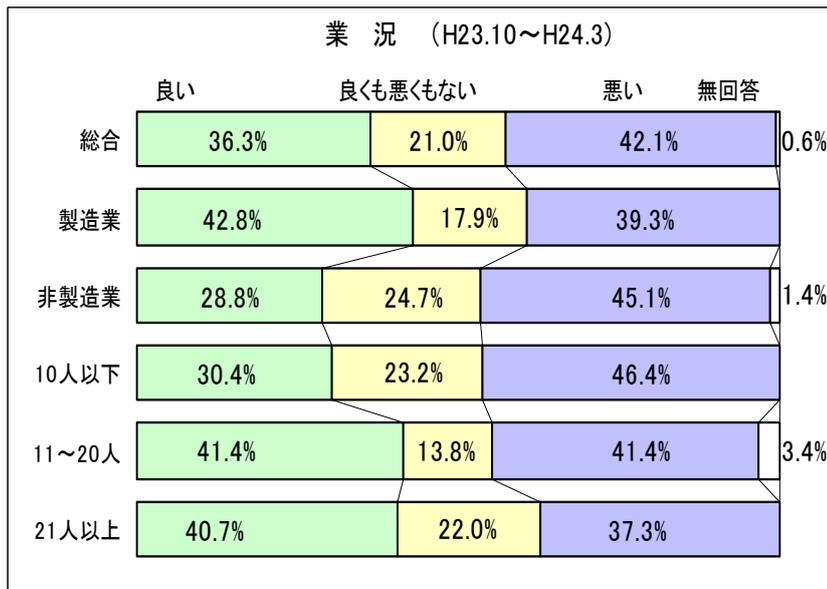
従業員過不足状況・

予測DIの推移

従業員過不足の値は、プラスが人手の過剰を示し、マイナスが人手の不足を示す。

従業員過不足の状況・予測の値は、共に大きく下降し、予測の値についてはマイナス値に転じた。

(7) 業況について

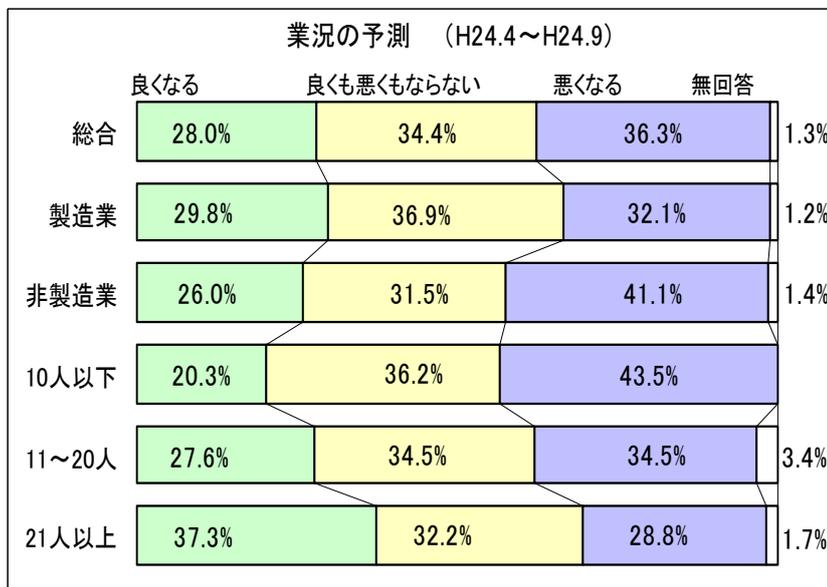


ここがポイント!

総合では、「悪い」割合が「良い」割合より5.8ポイント高い。

業種別では、「良い」割合は製造業が非製造業に比べ14.0ポイント高い。

規模別では、「良い」割合が「11~20人」で41.4%と最も高く、「悪い」割合は「10人以下」で46.4%と最も高い。

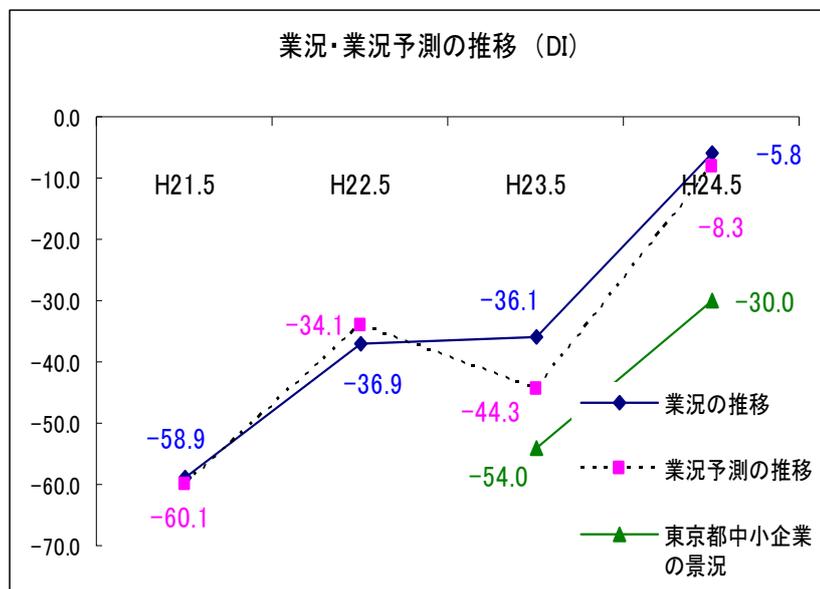


ここがポイント!

総合では、「悪くなる」割合が「良くなる」割合より8.3ポイント高い。

業種別では製造業が非製造業に比べ「良くなる」割合が3.8ポイント高い。

規模別では、「良くなる」割合は「21人以上」で37.3%と最も高く、「悪くなる」割合は「10人以下」で43.5%と最も高い。

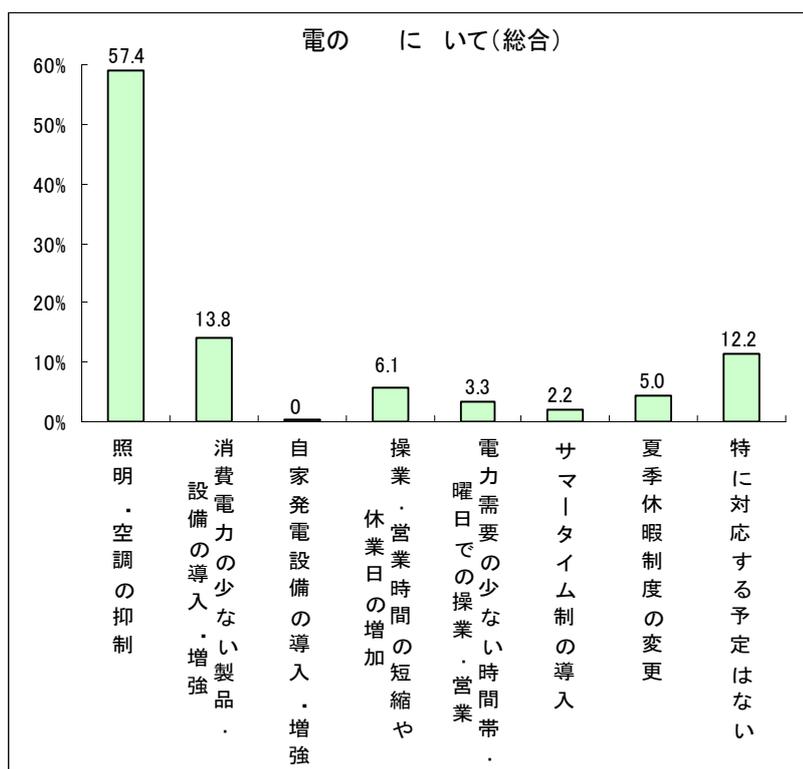


ここがポイント!

業況・業況予測DIの推移

業況の値・業況予測の値は、共に大きく上昇した。

(8) 節電の取組について 今回、今夏の節電への取組として特別に調査を実施



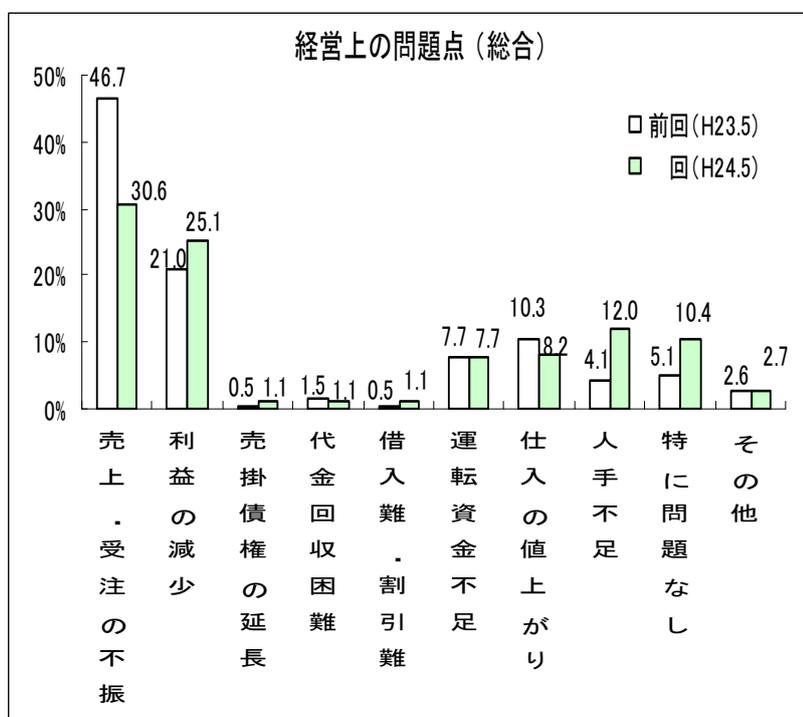
▶ここがポイント!

・ 節電の取組について

節電の取組については、1位が「照明・空調の抑制」、2位が「消費電力の少ない製品・設備の導入・増強」となった。

操業・営業時間の変更や、サマータイム制の導入も検討され、柔軟な対応が見られる。

(9) 経営上の問題点について



▶ここがポイント!

・ 経営上の問題点

経営上の問題点は、1位が「売上・受注の不振」、2位が「利益の減少」で、前回と同様の順位となった。

「人手不足」と「特に問題なし」の値が大きく増加したことが特徴的である。

4 . 府中市商工業の景況調査自由意見

【製造業】

- ・ 人件費の安い東南アジアへの進出が進むことで、日本国内の仕事量がますます減少し苦しい状況にある。
- ・ プリント基板メーカー業界でコストの低減争いが激しく、このままではプリント基板の価値が下がり、業界自体の存続が危ぶまれる。。
- ・ 一部では中国・韓国への輸出が好調と見られる一方で、国内分やヨーロッパ・アメリカへの輸出生産分の伸びが無い。また、先行き不透明感が強すぎるため、突発的な受注が多く、忙しさの反面、売上が伸びない。

【建設業】

- ・ 今期は少しずつ受注が増えてくるようだ。
- ・ 仕事は忙しいが、利益は薄い。
- ・ 一部メディア等では景気回復と言っているが、町場の事業主はまだまだ利益の減少など困っている。業況の見通しも悪くなると感じる。事業主に対する支援制度を幅広く充実させてほしい。
- ・ 受注工事における採算性が悪い。
- ・ 中小企業同士での受発注で凌いでいる状態。
- ・ せっかく仕事のオファーがあっても人手不足で断り、次からの仕事もなくなってしまふ。募集にお金をかけているがなかなか集まらない。

【小売・卸売・飲食業】

- ・ 販売不振のため乱売が激しい。零細企業にとっては勝ち残ることが必ずしも幸とは言えない状況。
- ・ 消費単価は下落する一方だが、消費やサービスに対して求められる水準は高くなっているため、利益水準は大幅に低くなっている。消費税が増税になった場合、廃業する業者は増加すると思う。
- ・ 当店では原料を国産品から仕入れているため、経常利益率が落ちてきた。
- ・ 人手不足だが、利益も減少しているので雇えない。
- ・ 若い人ほど昼食に弁当を持参するようになり、外食の需要が落ちている。

【サービス業】

- ・ 燃料の高騰や、客単価が下がっていることが心配。環境に対応できる機械の導入で設備投資が増えることも心配。
- ・ 売上が減少し、運転資金が不足気味になり、雇用をしたくても給料等の支払い面が不安で人材を増やせず、さらには宣伝広告も削減せざるをえず悪循環になっている。

【運輸・通信業】

- ・ 今後の経済状況を考えると、新たなビジネスを開拓する必要がある。
- ・ 徐々に売上状況は回復傾向にあるが、売上高不振からの脱却はできていない。